



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 8214 URL https://www.aoki-hd.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田村 春生  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員IR・広報室長 (氏名) 柳 智基 (TEL) 045-941-1388  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	119,074	15.9	4,398	—	3,854	—	1,851	—
2022年3月期第3四半期	102,713	8.5	△1,734	—	△2,511	—	△2,563	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 2,045百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 △2,775百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	21.81	—
2022年3月期第3四半期	△30.21	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	224,424	128,761	57.1
2022年3月期	233,008	127,641	54.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 128,070百万円 2022年3月期 127,082百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2023年3月期	—	7.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	10.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,700	11.5	8,800	61.7	8,150	86.9	4,100	59.9	48.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年3月期3Q	87,649,504株	2022年3月期	87,649,504株
2023年3月期3Q	2,746,806株	2022年3月期	2,746,514株
2023年3月期3Q	84,902,825株	2022年3月期3Q	84,860,387株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料について)

・四半期決算補足説明資料については、2023年2月9日(木)の決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の変異株が夏場及び10月以降に再拡大するなか、行動制限が段階的に緩和され、景気は緩やかに持ち直しの動きが継続いたしました。しかしながら、海外情勢の緊迫化などによりエネルギー価格や原材料価格の上昇、サプライチェーンの不安定化及び物価の上昇等、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは下記のような諸施策を実施した結果、売上高は1,190億74百万円（前年同期比15.9%増）、営業利益は43億98百万円（前年同期は営業損失17億34百万円）、経常利益は38億54百万円（前年同期は経常損失25億11百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は18億51百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失25億63百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

#### (ファッション事業)

ファッション事業では、商品面において、スーツなどのビジネス及びフォーマル関連の需要回復に伴う品揃え並びに「超軽量あったかコート」などの防寒商品を強化いたしました。また、2020年11月の発売以来ご好評をいただいている「パジャマスーツ」は、襟付きタイプが好調に推移しビジネスウエアとしても定着いたしました。働く女性を応援する「MeWORK（ミワーク）」プロジェクトでは、「洗える・防シワ・ストレッチ」の機能性を兼ね備えたジャケット「リラジャケ」を中心に展開いたしました。ORIHICAでは、オンラインと実店舗を連携した「イージーウェブショップ」を全店に導入することで、OMO（オンラインとオフラインの融合）を推進しお客様の利便性向上に努めました。店舗面では、営業効率改善のためAOKI及びORIHICAでそれぞれ7店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は596店舗（前期末610店舗）となりました。

これらの諸施策の実施等により特にフォーマル及びカジュアル商品が好調に推移し、売上高は584億円（前年同期比10.1%増）、営業利益は10億25百万円（前年同期は営業損失23億38百万円）と増収増益になりました。

#### (アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業では、WEBやSNSを活用した効率の良い集客施策を継続するとともに、各ウエディングスタイルの更なる磨き上げを実施いたしました。また、2023年に開業から25周年を迎えるアニヴェルセル表参道の全館リニューアルに先立ち、ティファニー（リニューアル後にフラッグシップストアとしてオープン予定）のホリデーシーズン限定コラボカフェとポップアップストアを期間限定でオープンし、多くのお客様にご来店いただきました。

これらの諸施策の実施等により、売上高は71億57百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は5億76百万円（前年同期は営業損失53百万円）と増収増益になりました。

#### (エンターテイメント事業)

複合カフェの快活CLUBでは、「日本全国どこでもオフィス」プロジェクトの推進として、全国紙等電子版の無料読み放題などのコンテンツを提供するとともに、新たな試みとしてビジネスに集中できるBizルームを展開いたしました。カラオケのコート・ダジュールでは、プロヴァンスコースなどのパーティーメニューの充実及びファミリーや学生層獲得のための施策を実施いたしました。24時間営業のセルフ型フィットネスジムのFIT24は、インドアゴルフ併設店舗を含め予定通り出店を継続いたしました。店舗面では、快活CLUBで4店舗及びFIT24で23店舗を新規出店した一方、業態転換及び営業効率改善のため快活CLUBで12店舗及びコート・ダジュールで8店舗を閉鎖した結果、ランシシステムの複合カフェ自遊空間他111店舗（内フランチャイズ60店舗）を含め、当第3四半期末の店舗数は826店舗（前期末708店舗）となりました。

これらの諸施策の実施等により、売上高は527億11百万円（前年同期比24.9%増）、営業利益は27億37百万円（前年同期は営業利益2億5百万円）と増収増益になりました。

#### (不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、一部転貸店舗の原価が増加したこと等により、売上高は35億77百万円（前年同期比9.6%増）、営業利益は6億28百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、季節的要因等により前連結会計年度末と比べ85億84百万円減少し、2,244億24百万円となりました。

流動資産は、棚卸資産が仕入高の増加等により17億8百万円増加した一方、売掛金が季節的要因等により50億21百万円、現金及び預金が49億54百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ63億38百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が減価償却等により13億71百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ22億46百万円減少いたしました。

(負債)

流動負債は、短期借入れを40億円実施した一方、買掛金が季節的要因等により13億50百万円、未払法人税等が法人税等の支払い及び賞与引当金が賞与の支払い等によりそれぞれ19億57百万円及び10億34百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ13億60百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により77億19百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ83億43百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当の結果15億23百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ11億19百万円増加しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績について、ファッション事業では10月中旬以降、行動制限解除後の需要増の一巡感や生活必需品の高騰による衣料の消費環境への影響等により売上高はやや減少傾向となったものの、その他の事業においては、概ね堅調な動きが継続し、連結全体の業績は通期の進捗に対してやや上回って推移いたしました。

通期の連結業績予想については、物価高騰による消費環境や原材料価格等の上昇の動向、また、特にファッション事業におけるフレッシュアーズ等の特定マーケットの状況により大きな影響を受けますが、2022年11月10日に公表した数値の修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	37,937	32,983
売掛金	11,808	6,787
棚卸資産	18,330	20,038
その他	6,481	8,415
貸倒引当金	△44	△49
流動資産合計	74,513	68,175
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,804	66,345
土地	30,760	31,021
その他（純額）	15,857	14,683
有形固定資産合計	113,422	112,051
無形固定資産		
投資その他の資産	5,538	6,226
投資その他の資産		
差入保証金	6,970	6,721
敷金	20,222	19,240
その他	12,381	12,064
貸倒引当金	△40	△55
投資その他の資産合計	39,534	37,971
固定資産合計	158,495	156,248
資産合計	233,008	224,424

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	15,272	13,921
短期借入金	—	4,000
1年内返済予定の長期借入金	10,844	11,477
未払法人税等	2,508	550
賞与引当金	1,814	780
役員賞与引当金	44	24
その他	13,930	12,300
流動負債合計	44,415	43,054
固定負債		
長期借入金	44,314	36,595
退職給付に係る負債	815	850
資産除去債務	7,680	7,907
その他	8,140	7,254
固定負債合計	60,951	52,608
負債合計	105,366	95,662
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	23,870	23,036
利益剰余金	82,821	84,344
自己株式	△3,489	△3,490
株主資本合計	126,484	127,173
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	235	591
退職給付に係る調整累計額	362	305
その他の包括利益累計額合計	598	896
新株予約権	559	691
非支配株主持分	—	—
純資産合計	127,641	128,761
負債純資産合計	233,008	224,424

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	102,713	119,074
売上原価	66,390	74,056
売上総利益	36,323	45,017
販売費及び一般管理費	38,058	40,618
営業利益又は営業損失(△)	△1,734	4,398
営業外収益		
受取利息	49	48
受取配当金	26	36
その他	131	220
営業外収益合計	207	305
営業外費用		
支払利息	283	277
固定資産除却損	107	71
その他	593	500
営業外費用合計	984	849
経常利益又は経常損失(△)	△2,511	3,854
特別利益		
雇用調整助成金等	1,643	255
特別利益合計	1,643	255
特別損失		
減損損失	636	849
臨時休業等による損失	1,434	—
特別損失合計	2,070	849
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△2,938	3,260
法人税、住民税及び事業税	534	714
法人税等調整額	△909	798
法人税等合計	△374	1,512
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,563	1,747
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△104
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2,563	1,851



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,563	1,747
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△203	355
退職給付に係る調整額	△7	△57
その他の包括利益合計	△211	297
四半期包括利益	△2,775	2,045
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,775	2,149
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△104

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書「注記事項(重要な会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りに用いた主要な仮定について重要な変更はありません。

ただし、主要な仮定に記載した新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない2019年3月期と比べた既存店売上高合計等の前提について、ファッション事業は、85%から88%を86%から93%に、エンターテイメント事業は、87%から92%(複合カフェで91%から97%、カラオケで77%から82%)を89%から92%(複合カフェで93%から97%、カラオケで79%から82%)に、アニヴェルセル・ブライダル事業の施行組数は概ね96%を96%から100%、一組単価は概ね77%を71%から77%にそれぞれ変更いたしました。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッ ション事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	53,043	—	—	—	53,043	—	53,043	—	53,043
ブライダル	—	6,514	—	—	6,514	—	6,514	—	6,514
複合カフェ	—	—	34,883	—	34,883	—	34,883	—	34,883
カラオケ	—	—	4,930	—	4,930	—	4,930	—	4,930
フィットネス	—	—	2,377	—	2,377	—	2,377	—	2,377
その他	—	—	—	—	—	32	32	—	32
顧客との契約から 生じる収益	53,043	6,514	42,191	—	101,750	32	101,782	—	101,782
その他の収益	—	—	—	930	930	—	930	—	930
外部顧客への売上高	53,043	6,514	42,191	930	102,681	32	102,713	—	102,713
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	3	—	2,331	2,335	—	2,335	△2,335	—
計	53,043	6,517	42,191	3,262	105,016	32	105,048	△2,335	102,713
セグメント利益 又は損失 (△)	△2,338	△53	205	674	△1,511	11	△1,500	△234	△1,734

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。  
 2. セグメント利益又は損失の調整額△234百万円には、セグメント間取引消去2,689百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,924百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。  
 3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ270百万円、363百万円及び1百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ファッショ ン事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
ファッション	58,399	—	—	—	58,399	—	58,399	—	58,399
ブライダル	—	7,150	—	—	7,150	—	7,150	—	7,150
複合カフェ	—	—	40,774	—	40,774	—	40,774	—	40,774
カラオケ	—	—	7,297	—	7,297	—	7,297	—	7,297
フィットネス	—	—	3,769	—	3,769	—	3,769	—	3,769
その他	—	—	625	—	625	15	641	—	641
顧客との契約から 生じる収益	58,399	7,150	52,467	—	118,018	15	118,033	—	118,033
その他の収益	—	—	40	999	1,040	—	1,040	—	1,040
外部顧客への売上高	58,399	7,150	52,508	999	119,058	15	119,074	—	119,074
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	6	203	2,577	2,787	44	2,832	△2,832	—
計	58,400	7,157	52,711	3,577	121,846	59	121,906	△2,832	119,074
セグメント利益 又は損失 (△)	1,025	576	2,737	628	4,968	△1	4,967	△569	4,398

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業等です。

2. セグメント利益又は損失の調整額△569百万円には、セグメント間取引消去3,159百万円、のれん償却額△76百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,651百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ51百万円、692百万円及び8百万円です。また、各報告セグメントに配分していない全社資産において、遊休となった有形固定資産等96百万円を減損損失として計上いたしました。

(のれんの金額の重要な変動)

「エンターテイメント事業」セグメントにおいて、株式会社ランシシステムの株式を取得し連結の範囲に含めたことよりのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては777百万円です。